

を付けて居る、支那では總て不斷の着物は淺黃のキヤラコと極つて居ります、それでですから何枚拵へても同じ事です、それから拵へないといふことになら、學校には教場の壁に「脂粉を施すを禁す」衣服は淺黃のキヤラコとすなど、書いてありまして濫りに華奢に流れることを禁じて居ります、でありますから見ても氣持のよいやうに揃つて居ります、子供の玩具は矢張り日本と同じやうでございます、ましてまたソソに進んで居りませぬか、木だの土だの馬や馬車などを拵へて御座います、近頃日本の方が粗漏でございますから價も安い、玩具が流行で何處の見世でも賣つて居り、上流の方に歡迎されて居ります、上流の子供には矢張りお伴が付いて居りますが下流の子供になると同じやうであります、城外に川がありますから夏などは其川の邊へ行つて澤山遊んで居る、私共が遊びに行きました時に子供が大勢川に飛込んで遊んで居りましたが頻りに錢を投げ込んで呉れと申しますから投げてやりましたら競争して急いで潜つて拾つて來るのであります、さういふとは中々機敏

でございます。それから食物でございますが、食物は上流の人は銘々家に料理番を置いて拵へて居りますけれども下等社會になりますと振り賣の物を買つて戴いて居ります、ナゼかといふとアチラは燃料が御座いませぬ。薪炭が非常に高うございます、お粥から肉の焼いたのからお汁といふやうな物まで、總て賣に來ますから、それを賣つて戴いた方が經濟でございます、湯だけ沸す、さういふ風に振賣りから買つて食べますから兩親とも外へ出て働く阿父さんは馬丁に出て阿母さんは子守に行くといふやうな者は僅かに二三錢で振賣の物で濟すからチヨツとも手が掛らないのでございます。

倫敦の母學校

新歸朝者 田中太郎氏談

澁澤男爵の依頼により、英國倫敦を始め其他各國

の感化院、貧民窟等を視察し此程歸朝したる田中太郎氏は、某記者に對して倫敦に於ける母學校の模様を左の如く語りたり。

▲母の爲の學校 英國倫敦セントバンクラスの貧民窟チャルトンストリートに母の學校と云へる私立の一學校あり、其創立は千九百七年六月にして、現在の校長はミス、コールスとて極めて徳望高き婦人なるが學校の資金は全部慈善により毎週水木の二回に、貧民の母を集め育児法より料理法までも教授し居るも生徒は月謝を要せざるのみか、教授場にて要する材料は總て學校より支給され居り、毎回六十名程の貧兒の母が登校し左の科目に就て教授を受け居れり。

(水曜日)編物、裁縫、育児法、看護法

(木曜日)貧民の家庭に應用すべき料理法

而して授業時間は午後二時より同四時までの間にして毎水曜日の夜間を利用し、貧兒の父を集め、産婦の取扱、賃金を浪費せざる事、子供を虐待せざること等總て道德に關する講話を爲し居れるが成績極めてよく、附近の貧民は、太くコールス嬢

の徳を慕ひ居れり。

▲面白き教科書 同校の生徒たるべき母は、多く

歳老いたる者のみなれば之等に教ふるは、勞多くして功少なきを以て、教科書の如きものなるべく

簡易を旨とし、殆んど繪説き話の如きものとし教

ゆるを常とせり其一例をあぐれば「赤ん坊に過食

させるな」と云へる表題の下に實物大の嬰兒の胃

袋を描き、一ヶ月より六ヶ月、一ヶ月目に區別

し、傍らには一ヶ月の小兒を描き、一ヶ月の小兒な

らば一線、二ヶ月の小兒ならば二線、一ヶ月の小

兒には凡そコップに一杯與へても差聞へなしと云

へるが如く、何程無教育なる貧兒の母にも會得し

得るやうになしあるなり。

▲旨くて安き料理 美味にして最も安き料理は、

如何にして造り得るかと云へる問題の下に、實地

の料理を講習する事あり、貧民に斯かることを教

ゆるは、左迄必要な如きも、貧民は比較的賃

金を多く得たる時は、副食物などに浪費するもの

多き故、前述の如き問題の下に、なるべく費用を

て、此外嬰兒を寢かすに寢臺の如きものもなき爲
め、多く不潔なる板の間に寢かし居る由なれば、
學校にては麥酒の明函の如きものを壞して、四本
の足を附け、寢臺の製法を教授し學校にても之れ
を製作し、約五十錢位にて貧民に販賣し居るな
り。

▲看護婦の巡回 母學校にては嬰兒ある家、若く
は産婦ある家へは、時々看護婦を巡回せしめ、適
當なる注意を與へ、毎週火曜金曜の兩日に母が小
兒を連れて登校する際、校醫は簡易に小兒を診察
し、病兒ある時は、相當なる醫師の診斷を受けし
むるやう注意し居り、彼等貧民の食事は極めて粗
末なれば營養不良のもの多く、産前三ヶ月、産後
三ヶ月のものには學校よりは日本の十四錢位にて
立派なる焼肉新鮮なる野菜等を供し居れりと云
ふ。

保育叢話 (承前)

光藤 夫人

男女混合遊戯

男子は骨格選ふして如何にも男子らしく、女は
つたかづらの大木にまとはるが如く、優にやさし
く、きよなよとは本邦人の理想かのように思はれま
す、其の爲男子は幼少の頃より力を練るの運動を
多くし、女はなるたけ、やさしくしとやかにと思
ふ餘りに、極幼少の頃でさへ、一寸遊戯をするに
しても、お前は女だのにそんなお轉變な眞似をし
てと、すぐ之を御壓する風があるかと思はれます。
其れがやがて身體薄弱の基とはなりはしますまい
か。

上流中流下流と區別をして見ますれば、上流の家
庭に生立ちし女ほど、身體ケシヤになよなよと
其の體格も自然と薄弱で御座います、中流下流
となる程、強健な傾向があります、之は平素生活
状態によることは無論で御座いますが、何れの社